

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成29年8月10日
【四半期会計期間】	第84期第1四半期（自平成29年4月1日至平成29年6月30日）
【会社名】	株式会社テクノスマート
【英訳名】	Techno Smart Corp.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 高橋 進
【本店の所在の場所】	大阪市中央区久太郎町二丁目5番28号
【電話番号】	(06) - 6253 - 7200（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理部統括部長 山田 靖
【最寄りの連絡場所】	大阪市中央区久太郎町二丁目5番28号
【電話番号】	(06) - 6253 - 7200（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理部統括部長 山田 靖
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社テクノスマート東京支店 （東京都中央区日本橋茅場町一丁目8番3号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第83期 第1四半期 累計期間	第84期 第1四半期 累計期間	第83期
会計期間	自平成28年4月1日 至平成28年6月30日	自平成29年4月1日 至平成29年6月30日	自平成28年4月1日 至平成29年3月31日
売上高 (千円)	1,904,251	4,254,192	10,837,577
経常利益 (千円)	63,130	572,226	1,032,540
四半期(当期)純利益 (千円)	41,774	389,523	692,775
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	1,003,125	1,003,125	1,003,125
発行済株式総数 (千株)	10,821.7	10,821.7	10,821.7
純資産額 (千円)	10,119,445	11,173,792	10,923,463
総資産額 (千円)	15,800,455	19,476,257	18,364,276
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	3.94	36.76	65.38
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	-	-	20.00
自己資本比率 (%)	64.0	57.4	59.5

(注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成していませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 売上高には、消費税等は含まれていません。

3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載していません。

4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載していません。

5. 第83期の1株当たり配当額には特別配当8円を含んでいます。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものです。

#### (1) 業績の概況

当第1四半期累計期間における世界経済は、米国、欧州での政治的不安定さや、減速傾向の続く中国経済の不透明感など下振れ懸念が拭えない状況で推移しました。国内経済では製造業を中心に企業収益や雇用情勢が改善するなど、緩やかな回復基調が続きました。

このような状況下において、当社では、大きな成長が期待される電気自動車関連への車載用リチウムイオン二次電池や燃料電池用塗工乾燥装置、スマートフォン・タブレット端末用の光学フィルムやタッチパネル用塗工装置、医療材用塗工乾燥装置及び電子部品関連塗工乾燥装置の受注強化に取り組んでまいりました。その結果、海外における車載用リチウムイオン二次電池業界では、大型の設備投資が進められ、また海外でのディスプレイ用光学フィルム向けの設備投資もあり、これらの業界への販売に大きな伸びがありました。

売上高は4,254百万円(前年同期比123.4%増)となりました。主な最終製品別売上高は、ディスプレイ部品関連機器が1,998百万円(前年同期比564.1%増)、機能性紙・フィルム関連塗工機器が694百万円(前年同期比43.4%増)、エネルギー関連機器が1,422百万円(前年同期比121.8%増)となりました。売上高に占める輸出の割合は、86.9%(前年同期は54.7%)となりました。売上総利益は、743百万円(前年同期比239.4%増)、売上総利益率は、17.5%(前年同期は11.5%)となりました。販売費及び一般管理費は、194百万円(前年同期比17.8%増)となりました。営業利益は、548百万円(前年同期比918.5%増)、経常利益は、572百万円(前年同期比806.4%増)、四半期純利益は、389百万円(前年同期比832.4%増)となりました。

受注高は4,440百万円(前年同期比2.8%増)、その内輸出受注高は、3,293百万円(前年同期比15.0%減)となりました。受注高に占める輸出の割合は、74.2%(前年同期は89.7%)となりました。受注残高は8,529百万円(前年同期比54.3%増)、その内輸出受注残高は、6,869百万円(前年同期比47.2%増)となりました。受注残高に占める輸出の割合は、80.5%(前年同期は84.5%)となりました。

個別の受注金額は、中国市場など新興国を最終需要先とした国内企業をはじめ、中国や韓国企業向けでも、国内外の設備メーカーの価格競争は大変厳しいものとなっています。また、今後も光学フィルム関連と合わせて、車載用リチウムイオン二次電池やセパレーター及び燃料電池などのエネルギー関連業界に対し、更なる販売強化に取り組みたいと考えております。

#### (2) 財政状態の分析

総資産は、19,476百万円(前期末比6.1%増)となりました。これは主に売上債権の増加によるものです。負債は、8,302百万円(前期末比11.6%増)となりました。これは主に仕入債務の増加によるものです。純資産は、11,173百万円(前期末比2.3%増)となりました。自己資本比率は57.4%(前期末は59.5%)となりました。

#### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### (4) 研究開発活動

当第1四半期累計期間の研究開発活動に要した費用は、総額16百万円となりました。

なお、当第1四半期累計期間における研究開発活動の状況に重要な変更はありません。また、当社は単一セグメントのため、セグメントごとの研究開発活動については記載していません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	25,000,000
計	25,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成29年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成29年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,821,720	10,821,720	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 100株
計	10,821,720	10,821,720	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成29年4月1日～ 平成29年6月30日	-	10,821,720	-	1,003,125	-	515,858

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】  
【発行済株式】

平成29年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 226,600	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,590,200	105,902	-
単元未満株式	普通株式 4,920	-	-
発行済株式総数	10,821,720	-	-
総株主の議決権	-	105,902	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株(議決権の数10個)含まれています。

【自己株式等】

平成29年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社テクノスマート	大阪市中央区久太郎町二丁目5番28号	226,600	-	226,600	2.09
計	-	226,600	-	226,600	2.09

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第1四半期累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期財務諸表について、仰星監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査法人は次のとおり交代しております。

第83期事業年度	暁監査法人
第84期第1四半期会計期間及び第1四半期累計期間	仰星監査法人

### 3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

## 1【四半期財務諸表】

## (1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成29年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,606,559	5,413,271
受取手形及び売掛金	7,617,578	8,745,653
電子記録債権	245,323	322,100
仕掛品	222,661	329,442
原材料及び貯蔵品	42,513	38,150
その他	199,140	217,772
流動資産合計	13,933,776	15,066,390
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	755,210	746,176
機械及び装置(純額)	208,329	199,053
土地	2,026,482	2,026,482
その他(純額)	82,743	78,027
有形固定資産合計	3,072,766	3,049,739
無形固定資産		
10,874	10,874	10,246
投資その他の資産		
投資有価証券	1,201,950	1,212,216
その他	147,208	139,964
貸倒引当金	2,300	2,300
投資その他の資産合計	1,346,859	1,349,880
固定資産合計	4,430,499	4,409,866
資産合計	18,364,276	19,476,257
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,324,256	2,482,218
電子記録債務	1,894,066	2,757,992
1年内返済予定の長期借入金	472,466	424,750
未払法人税等	323,212	189,348
前受金	639,518	612,891
賞与引当金	118,938	55,184
役員賞与引当金	16,443	8,280
その他	182,936	371,943
流動負債合計	5,971,837	6,902,608
固定負債		
長期借入金	369,444	290,002
退職給付引当金	590,619	600,942
資産除去債務	8,898	8,898
その他	500,013	500,013
固定負債合計	1,468,975	1,399,856
負債合計	7,440,813	8,302,464

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成29年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,003,125	1,003,125
資本剰余金	515,858	515,858
利益剰余金	8,022,363	8,263,555
自己株式	109,308	109,308
株主資本合計	9,432,038	9,673,230
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	386,984	396,122
土地再評価差額金	1,104,439	1,104,439
評価・換算差額等合計	1,491,424	1,500,562
純資産合計	10,923,463	11,173,792
負債純資産合計	18,364,276	19,476,257



## (2)【四半期損益計算書】

## 【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	1,904,251	4,254,192
売上原価	1,685,148	3,510,586
売上総利益	219,103	743,605
販売費及び一般管理費	165,209	194,689
営業利益	53,893	548,916
営業外収益		
受取利息	96	47
受取配当金	13,246	14,293
為替差益	-	5,688
その他	4,260	5,842
営業外収益合計	17,603	25,872
営業外費用		
支払利息	1,885	971
保険解約損	5,678	1,533
その他	803	57
営業外費用合計	8,366	2,561
経常利益	63,130	572,226
税引前四半期純利益	63,130	572,226
法人税等	21,355	182,703
四半期純利益	41,774	389,523

【注記事項】

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しています。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりです。

	前第1四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
減価償却費	26,798千円	26,238千円

(株主資本等関係)

前第1四半期累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	74,166	7.00	平成28年3月31日	平成28年6月29日	利益剰余金

当第1四半期累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月27日 定時株主総会	普通株式	148,331	14.00	平成29年3月31日	平成29年6月28日	利益剰余金

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)及び当第1四半期累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

当社は、機械器具製造業の単一セグメントであるため、記載を省略しています。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	3円94銭	36円76銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	41,774	389,523
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	41,774	389,523
普通株式の期中平均株式数(千株)	10,595	10,595

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 8月 7日

株式会社テクノスマート

取締役会 御中

仰星監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 寺本 悟 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 田邊 太郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社テクノスマートの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第84期事業年度の第1四半期会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第1四半期累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社テクノスマートの平成29年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### その他の事項

会社の平成29年3月31日をもって終了した前事業年度の第1四半期会計期間及び第1四半期累計期間に係る四半期財務諸表並びに前事業年度の財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期財務諸表に対して平成28年8月9日付けで無限定の結論を表明しており、また、当該財務諸表に対して平成29年6月21日付けで無限定適正意見を表明している。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。